

低炭素社会戦略センターシンポジウム「低炭素社会実現のための課題と展望」

日時 平成 27 年 12 月 24 日（木）14:00～17:25

場所 伊藤謝恩ホール

閉会挨拶

濱口 道成（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）理事長）

大変お疲れのところ恐縮でございますが、一言ご挨拶させていただきます。本日は長時間の会議ありがとうございます。また、パネリストの皆さま、それから、この講演会を準備していただいた皆さま、本当にありがとうございます。

地球温暖化の問題というのは、今、待ったなしの状態になっていると思います。今日の議論を拝見しても、この低炭素というのは個人の日常の生活でもあり、国際政治、社会構造、産業、経済の問題でもあり、政治的な課題もあるという、多段階、複合的な課題が山積していて、どこが突破口か全く見えません。一点突破的に何かやれば問題が解決するというわけでもない。従来の単純な科学技術の発展モデルでは、見えない新しい科学技術のアイデアの必要な現場であると思います。

一方で、例えば、サイクロンがアラビア半島に上陸するような事態になったり、日本に5月から台風がきたり、この12月になってもコートが要らないような毎日でありますし、インドへ行ってみますと、PM2.5が実は北京より高かったということにこの間気が付きまして、日本で全然報道されていませんが、環境破壊というのはアジア全体で起きております。モンゴルのウランバートルでも、大気汚染はすさまじいのです。都市生活の周辺には巨大なスラムが展開し始めていて、経済問題を優先しようとする全く解決するどころか、現状が悪くなる。COP21の議論はありますが、なかなかドラスチックな改革には進まないという状況にあります。

だからこそ、やはりJSTとしては、こういう研究というのは、社会の中の科学、社会のための科学というのを今の具体的な課題の中でどう展開するかという意味で、大変重要なレッスンになっていると思いますし、今日はそういう意味では大変勉強になりました。改めて、このシンポジウムを準備していただいた皆さまには深く御礼申し上げますとともに、私どもも目一杯頑張りたいと思います。どうぞ、ご協力、ご支援のほどよろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

以上